月刊
えくてびあん
立川と語ろう 立川に生きよう
10
<EKUTEBIAN VOL.11 OCTOBER 1992 EKUTEBIAN>
まい あーと ■ 切り絵「本棚」 by 竹松直子
ユルスナール
ボルヘス
自選短篇集
鏡のなかの鏡
魔女グレートリ
幻獣辞典
人魚姫
雪の女王
モモ
長靴をはいた猫
グリム童話集1
グリム童話集2
異色絵本

小さな粋見つけた

ふと道を歩いていると、意外なところに家のおしゃれを見つけることがある。大正時代の「モダーン」な西洋館を思わせる、尖り屋根に出窓のある家。アドベンチャーファミリーの世界を思わせる、立派にもその家を代表する棒っ切れで作った表札。先代からのものを大切に維持し、磨いていたり、お父さんの日曜大工で、子供と真剣に作った作品であったり……。今度の秋には小さな粋も見つけてみては？

ほのかに温かさを醸す手づくりのステンドグラス
／八島さん宅（柴崎町1丁目）

西洋を思わせる、シルエットがきれいな馬の表札
／芝田さん宅（柴崎町1丁目）

この家を代表する立派な表札なのです
／佐藤さん宅（柏町3丁目）

ウイスキーのビンでお父さんが作った手づくりのランプ。ほのかに灯っている温かさ。
／橋本さん宅（曙町3丁目）

西洋館風出窓の内装。窓の開閉具合いを金具にある穴にはめて調節。
／渡辺さん宅（高松町1丁目）

コンクリートの古さが物語る西洋館風出窓
／武田さん宅（高松町1丁目）

ブロークンブロックがひときわワイルドな門 TAKAMATSU 1−9−5（高松町1丁目）

時代の跡形が屋根の側面に残っているようです。当時この辺りにも外人のハウスが多かったとか…
／小河さん宅（柴崎町2丁目）昭和9年築

当時の職人さんがタイルの組合せ一つにも工夫を凝らし、「モダーン」に挑戦したのでしょうか。
／保田さん宅（柴崎町2丁目）

あれ？どこか違う窓。こんな心の余裕が嬉しいですね。
／花清（高松町2丁目）

一番、趣がありましたが、この夏家の普請で塗装が変わりました。
／増田さん宅（柴崎町2丁目）

西洋館風の応接間を今でも大事に使っている。
／和田さん宅（高松町1丁目）

当時、南口のこの周辺にも多かった外人のハウスにも調和していた。
／前島さん宅（柴崎町2丁目）

宮大工の頭領が洒落て作ったというこの家。昭和8年築
／山崎さん宅（曙町3丁目）

立川から今度はマドリードへ

パラリンピックと言えば身体障害者のスポーツ選手にとっては世界的スポーツの祭典。その日本代表としてバスケットボール日本選抜選手10人のうち、今回、立川から4人が選ばれている。スペインのバルセロナ・オリンピックに続いて今度は俺たちの番だとマドリード・パラリンピックへと向かった。

▲迅速な走り、フォワードの佐伯伸晴君

▲ゴール下の戦いは俺に任せろ／センターの小松克次君

▲攻撃の要、フォワードの清水勝洋君のドリブルが冴える

▲手堅くフリースローシュートを決めるキャプテンの松林純二君

▲プレー一つ一つに的確なアドバイスを送る小嶋隆司監督

▲選手たちを厳しく見守る、細田英樹先生

▲パラリンピック・オールジャパンの10人

●つばさ！ファイト・オー

九月十二日、元気に出発。出発前の九月五日には、都内でも指折りの強剛チーム、保善高校と壮行試合が行われた。前半、絶えず押され気味であったが、後半から徐々に1ゴール、2ゴールと決めていく。しかし、都内ベスト4の保善高校は、さすがに強い。あきらめかけていた流れの中でミドルシュートが鮮やかに決まる。ベンチから「やった！〇〇！ガッツポーズだ！」と、小嶋監督の選手を激励する声が飛ぶ。「元気を出してやろう！楽しく！」～それが、『つばさクラブ』のモットーなのだ。

今までのパラリンピックは肢体不自由者のための大会であったが今回から精神薄弱者部門が誕生。

立川養護学校をはじめ、都内5つの養護学校の在校生や卒業生で三年前、結成したチーム「つばさクラブ」が、一番乗りで日本代表の座を獲得した。毎週日曜の午前10時から午後5時まで練習。国内のチームではもちろん最強で普通高校のバスケット部とも互角に戦える実力。そんな自信が、去年のスペシャルオリンピックの出場に続き、今回のパラリンピックへとさらに大きく夢を広げた。

●マドリードでガッツポーズを

試合が終わると、応援にやって来たお母さんたちによるジュースの差入れ。嬉しそうにそれを飲む選手たち。明日は実業団チーム日本鉱業との壮行試合が待っているのだ。有力チームとの試合の段取りに余念がない。小嶋監督と細田先生。小嶋監督は板橋養護学校、細田先生は立川養護学校の教諭である。土曜日の授業が終わると双方から急いで選手たちを引き連れて今日も都内での試合にやって来た。できるだけの時間を選手たちと一緒に過ごしてきた。お母さんたちの差入れも毎回である。そんな優しさを一杯に受けて、「つばさクラブ」は、日本代表になり、今、世界へ挑む。マドリードでは最高のガッツポーズを見せて欲しいものだ。

ことわざ問答㉛

漢字一字挿入せよ

欲の■に　底はなし

牛に対して　■を弾ず

立川トピックス

二中、全国大会へナイシュー

都大会準優勝関東大会準優勝で全国大会へ出場した我らが二中バスケット部。岡田光弘(5)高橋秀和(4)岩下和弘(8)選手らを中心に素早いパスワークからシュートが冴えた速攻で小山監督赴任5年目にして全国大会への切符を手にした。八中時代、五中時代でも全国大会へ選手を送っている小山先生は「バスケットは判断力のスポーツなんです。パスをするか、ドリブルか。瞬時の判断力がモノを言う。一つには正しい判断をつけられる人になってもらえたら。それは長い人生においても」と語ってくれた。

アパッチの襲撃、ついに王者に

初出場にして初優勝を飾ったのは、立川アパッチのナイン。都大会優勝。関東大会準優勝。NTT杯優勝と、この夏3つのメダルを手にした。けれど、はじめから優勝するには決して有利なチームではなかった。キャプテンの斉藤雄太君（サード）、宇田川和成君（キャッチャー）、村田裕君（ショート）の3人は小学一年生からの6年目のトリオ。3人では野球はできないからと友達をチームに誘うところから始まった。6年間毎土曜・日曜とすべての休みを野球にあててきた小さな青春の夏が一際光った。

立川クイズ

「新しい住民に町の伝統を知ってもらい新旧住民の触れ合いを深めたい」と、富士見町5丁目（山中）に天保九年（一八三八）に作られた大きな「山中氏子中奉納のぼり」が40年ぶりにこの夏かかげられました。何かを祈願したものですが次のどれでしょうか？①その土地から天にも昇るような大物の誕生を願って②豊作を祈願した③単に祭りの飾りだった。

【9月号の答】③

相模の大山阿夫利神社は雨乞いの神様。定期的にお参りに行っていたということですが、代表で必死の思いで収穫の豊作を祈って、日照りが続くと、何度もその道を通うようにしていたことから、砂川三番辺りから大山団地の東を昭島方面へ走る道は「大山道」といいました。

真如苑だより

あんなに厳しかった残暑がうそのように、秋天がひろがってきました。秋たけなわになると、どうして天が高くなるのでしょうか。「天」までの高さを計ってきたような……。

苑の境内から、この立川の秋空を見上げると一段と高く感じられます。お越しください。

■日時　10月12日(月)　2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

表紙は語る

まい・あーと　切り絵画『本棚』by 竹松直子

8月20日から30日まで、テプコギャラリー（錦町）で開催された、第4回立川切り絵友の会展の中でも、ひときわユニークなイメージを与えていたこの作品。「大人は気がつかないけれど子供は知っているような、コロボックル物語やヨーロッパの妖精の話が頭の中にあってそれが出てくるんですね」と、竹松さんは語り始めた。そう言えば、作品のあちこちに妖精が隠れている。

「そばにあるもので見過ごしがちなものをやってみると面白いんです。それは手入れを忘れた生け垣であったり、隅にしまい忘れた植木鉢であったり…飾らないけどいいな。そういう、ぽおっと温かいもの。ポーズをとってないけど、どこか温ったかい。そういうものを探していきたいですね」

竹松さんはしおりを細かく作って人にプレゼントするのが趣味だという。見る人が楽しんでもらえれば、というそんな優しさがユニークさを誕生させている。

三菱の(優)自動つみたて定期預金　三菱銀行　立川支店

9月24日～30日　独楽の会 <komanokai> 第3回美術展
場所：朝日ギャラリー〈立川ルミネ9F〉
時間：11:00～18:00
問合せ：25-4811

ことわざ問答　答

欲の袋に　底はなし

人間の欲望には、際限がない。欲にきり無し、地獄に底なし。隴を得て蜀を望む、とも。

牛に対して　琴を弾ず

高尚なことを説き聞かせても、愚か者には効き目はない。犬に論語、牛に経文とも。

東風

芳野満彦氏の『山靴の音』を読んだのはもう、ふた昔も前のことだろうか。中学生で日本の主だった山という山へ登り、高校の時に遭難、両足先を切断という登山家としては致命傷を負った。だが、芳野はあきらめない。独特の工夫をこらして初登攀を繰り返し、その記録は20を越えている。マッターホルン北壁登攀の一文を読んだが、登山に昏い者でも涙なしには読み切れない◆最近の報道ではアメリカの学生が、両足の膝下切断という事故にあいながら、自分に合った義足を「発明」して、岩登りや雪山に挑んでいる。フル・マラソンにも挑戦するという。マラソンという種目は10キロの4倍ではない、20キロの2倍ではない。ランナーによって異なるがコースのどこかで、超え難い苦境を超えなければゴールが見えない過酷な種目である◆健常者という言葉をよく耳にする。健常者にさえ出来ないことを……。歎噛の匂いがぷんぷんとする。もともと、人間に「健常」などという状態はないのではないか。身体の話で解りにくければ「こころ」について考えてみればよい。どこに「健常者」がいようか◆ひとはそれぞれに与えられた障害を超えるために今日があるのだとすれば芳野満彦氏や義足を発明するアメリカの学生にくらべて、私の日常は単に「ぼんくら」としか云いようがない◆桐一葉つややかに踏め　えくてびあん

（編集）小川知子　鵜川理　中村絵里　塚田悦子　半沢正弘　町田謙一　山田恵子
（写真）天野武男　板橋一明　井上義治　スタジオ269　枝川一巳　本多修

月刊えくてびあん　第99号
平成四年十月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町1-3-37-303
磐城ビル3F　〒190
電話　〇四二五(28)〇〇八二
FAX　〇四二五(28)一二九七
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

森田忠次さん
(柴崎町4丁目)
愛機→マミヤRB67
■萌える秋

私の傑作選

NO.15

NICE SHOT!

誰のアルバムにもキラリッと光る一枚がある。
撮れた!と思った。シャッターが軽い。

小俣八洲雄さん
(柴崎町2丁目)
愛機→オリンパスOM-3
■姉妹